



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年  
No.7  
事例3

疑義照会

## 検査値



### 事例

#### 【事例の内容】

関節リウマチの診断を受けた患者に、メトトレキサートカプセル2mg「SN」 2カプセル分 2朝夕食後（土曜日服用）、1カプセル分1朝食後（日曜日服用）、フォリアミン錠 1錠分1朝食後（火曜日服用）が処方された。処方箋には検査値の記載があり、クレアチニン1.14 mg/dL、eGFR36.7mL/min/1.73m<sup>2</sup>であった。日本リウマチ学会のガイドラインによると、腎機能が低下した患者には初回2～4mg/週の開始が望ましいことから疑義照会を行った。メトトレキサートカプセル2mg「SN」は、日曜日の服用が削除になり、土曜日だけの服用になった。また、フォリアミン錠の服用日が火曜日から月曜日に変更になった。

#### 【背景・要因】

腎機能の確認が漏れたため、通常開始量である6mg/週が処方されたようである。

#### 【薬局が考えた改善策】

引き続き、処方箋に記載された検査値を確認し、データに基づいた処方監査を行う。



### 事例の ポイント

- 検査値が付されている処方箋を応需した場合は、検査値を基に、処方薬の1日の投与量・投与回数や投与期間の妥当性、服用薬による副作用発現の可能性を判断したうえで調剤を行うことが重要である。
- メトトレキサート製剤は、腎機能低下症例には低用量で開始することが勧められており、2～4mg/週で開始し、慎重に漸増することが推奨されている\*。
- メトトレキサート製剤と併用される葉酸製剤は、5mg/週以下をメトトレキサート最終投与後24～48時間後に投与することが推奨されており\*、メトトレキサート製剤と葉酸製剤の投与間隔についても確認する必要がある。
- 日頃から最新の診療ガイドラインなどに目を通し、薬物療法に関する広い知識を身につけておくことが重要である。

※参考：関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン2016年改訂版 日本リウマチ学会MTX診療ガイドライン策定小委員会/編



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。